

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：ウイルスと生命科学の最前線 ILAS Seminar :The Front Line of Life Science and Virus Research			担当者所属 職名・氏名	ウイルス・再生医学研究所 准教授 酒井 博幸 ウイルス・再生医学研究所 准教授 大塚 俊之 ウイルス・再生医学研究所 准教授 森 博幸		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2018・前期	受講定員 (1回生定員)	10(10)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	ウイルス再生研2号館2階小セミナー室(211号室)(医・薬・病院構内)			使用言語	日本語
キーワード	ウイルス / 生命科学 / 分子生物学 / 神経 / 癌						
[授業の概要・目的]							
<p>ウイルスは呼吸器疾患、免疫不全、癌、神経疾患など様々な疾患を引き起こす重大な脅威となっている。ウイルスは宿主の持つ様々な分子機構を利用して増殖、複製を行っており、ウイルスに対する対策を立てるためには、ウイルスが利用する宿主の分子機構の本質を理解する必要がある。一方、ウイルスや微生物の研究から今日の分子生物学が発展してきている。本講義においては、ウイルスや微生物と宿主の関わりという視点から、生体分子の構造、細胞機能制御、遺伝子制御の分子生物学から免疫、神経、発生、癌に関する高次生命科学研究への展開という生命科学の多層性を理解することを目的とする。</p>							
[到達目標]							
<p>生命科学の多層性を理解する。 課題（レポート）に対して自主的に取り組む能力を養う。 積極的かつ的確に討論する能力を養う。</p>							
[授業計画と内容]							
<p>第1回 オリエンテーション（酒井、森、大塚） 第2回～第5回 生体分子の構造と機能、品質管理機構について（森） 第6回～第10回 細胞生物学と高次生命科学について（大塚） 第11～第14回 ウイルス感染と発がん、生体防御について（酒井） 第15回 総括 / 学習到達度の評価（口頭発表を行う） 第16回 フィードバック・方法は別途連絡します。 上記内容について基本的なことを解説するとともに、最先端の知見を紹介し、研究室見学、機器の操作のデモ、細胞観察等を行い、分子生物学研究の基本的な手技を理解できるようにする。</p>							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点及び達成度]							
<p>出席状況（40点）、レポート（30点）、口頭発表（30点）により評価する。 ・ レポートと口頭発表については到達目標の達成度に基づき評価する。 ・ 口頭発表は第15回（7月24日予定）に行う。 ・ 第1回～第14回の講義のうち3回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。</p>							
ILASセミナー：ウイルスと生命科学の最前線(2)へ続く							

ILASセミナー : ウイルスと生命科学の最前線(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

必要な予習・復習事項は、第1回のオリエンテーション以降の授業中に指示する。

[その他(オフィスアワー等)]

ゼミナールの性格上、特別な予備知識等は必要としない。
質問は随時受け付けるので、疑問点があったら積極的に質問すること。